

何度も読んでいる本なのに、心の状態によってそれまで気にも留めなかった文言が印象に残ることがあります。また、毎日通う通勤路で、ある日突然以前から目にしてきたお店が気になることはないでしょうか。趣味が変われば、目に留まるものが変わるように、気づきの視点は、その時々興味や関心事によって変わります。

ゆえに、自分自身の心の状態が変わると、それまで気づけなかったことに気づけるようになるのです。

建設会社を営む父親の下で育ったK氏は、ワンマンな父親と良好な関係を築けずいました。将来的には、自分が会社を継ぐのだろうという漠然とした思いはあり、父親の経営する会社に入社したものの、その関係は改善されることなく、むしろ不満を溜め込んでいました。

ところが、父親が急逝し、突然社長に就任することになってしまったのです。心の準備が整っていなかったK氏は、混乱に陥りました。しかも、社葬の手配など様々な手続きに右往左往しているにもかかわらず、頼りの弟は手伝ってくれず、社員たちも言うことをきいてくれません。

倫理法人会で純粹倫理を学び、「明朗・愛和・喜働」の重要性は分かっていたものの、いざ苦難の只中に放り込まれると、心を前に向けられませんでした。周囲の人々とも関係が悪くなる一方で、遂に業績も下がっていったのです。

そこで倫理指導を受けると、講師からは



## 自分が変われば 新たな気づきを得られる

お墓参りをし、困っていることを、お墓の父親に相談しなさいと言われました。それまで墓参りの習慣はありませんでしたが、藁にもすがる思いで実践を決意しました。

それからは空き時間をみてはお墓に向向き、時には不平不満をぶつけることもありましたが。そうして実践を続けていると、誰にも相談できなかつた自分の胸の内を吐き出すことができ、墓前では心が落ち着くのでした。

そんなある日の経営者MSで、机の上に置かれた「今週の倫理」を手に取りました。そこには「祖先はいつも自分の中にいる」と書かれていたのです。それまで幾たびも学んでいたことではありましたが、その時はじめて「父親は常に自分の中にいるのだ」と心の底から思えたのです。

そして「父親もこうした苦労を乗り越えて会社を守ってきたのだ」という感謝が深まると共に、その父親がいつも自分の後ろにいるのだと思うと頼もしく感じました。落ち着きを取り戻したK氏は、弟や社員へ冷静に接することができるようになり、その関係は改善されていきました。そして社は一丸となり、見事に業績が回復していったのです。

耳目に触れるものだけでなく、直感的に感じるものも含めて、気づきは自分自身の心の状態に拠って、与えられます。

新たな気づきを得て、道を切り拓くためにも、まずは自分自身の心を変える実践に励みたいものです。